| 2009 年度春学期　チューター業務を振り返って | |
|---|---|
| 所　　属 | 社会学部　　社会　　学科 |
| 担当科目 | 社会調査入門 |

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

2009 年春学期のチューター業務を通して気づいたことは、自分が今まで、与えられてきたことをこなす生活の中に存在し、その環境慣れすぎていたのだということでした。

社会調査入門の授業の中で、特別にチューターがこなす仕事というものは、基本的には、ほとんど存在しませんでした。基本的に授業に参加して授業プリントを配ることが毎回の仕事でした。自分のやるべき事が分からない状況に置かれて初めて、自分は、常に人から与えられた環境の中にいたのだなと実感しました。自分ですべきことは、自分で探す、または自分でつくることが必要なのだなということが、春学期のチューター業務を通して学んだことでした。

また、学生の提出してくれたプリントにコメントを書く作業で感じたのは、授業内容の真意を理解できている学生が、とても少なかったということでした。私が聞いている限りでは、とても分かりやすい授業が行われているように感じたのですが、それでも、プリントには、見当はずれの解答が多く見られました。私が見て驚くほどレベルの高い解答を書いてきた人も存在し、解答のレベルは様々でしたが、見当はずれの解答が、つい気になってしまいました。

そのとき感じたのは、教えることが、どれほど難しいかということでした。教授の授業は、私から見れば、非常に分かりやすく、素晴らしい授業でした。しかし、その授業も、一部のものにとっては、理解できない授業なのだなと感じました。しかし、その一部が存在するからといって、その一部のレベルに授業をあわせてしまえば、それはそれで、よく理解できているものにとっては、退屈な授業になってしまいます。100 人をも超える学生を教えるということは、それだけ多種多様なレベルの学生に合った授業をするということになります。それが、どれだけ難しいことかということが、よく分かりました。私は将来、教師を目指しているので、非常に良い勉強になりました。

今回の社会調査入門の授業は、私も 1 回生のときにとっていたのですが、1 回生のときに聞く授業と、3 回生になってから聞く授業では、理解度や、考えることもずいぶん違ってくるなと感じました。私が 1 回生の頃は、なんとなく、教授の言っていることを理解する程度しか出来ていませんでしたが、3 回生になって、改めて同じ授業を受けてみると、授業から発展して、様々なことに思考が及ぶようになっていたことに気づきました。このようなことに気づくことが出来たのも、チューター業務を行ったおかげであると感じました。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

今後のチューター業務では、もっとナチュラルに、先輩、後輩が質問して、交流しあえる環境を作っていければよいのではないかと思います。具体的には、授業中に、チューターと生徒が協力して行う課題をつくり、それを話し合いながらつくっていくことで、お互いの交流を深め、質問しやすい環境をつくっていくことができれば、素晴らしい学びが得られるのではないかと思います。社会調査入門では、グループワークの補助に入ることがありましたが、質問を受け付けながら教室を回るのではなく、始めから話し合いの進行者としてチューターを置くことが効果的ではないかと思います。

# 2009年度春学期　チューター業務を振り返って

| 所　　属 | 社会学部　　社会　　学科 |
|---|---|
| 担当科目 | 社会調査入門 |

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

仕事内容は、基本的には担当科目の講義に出席をしてプリントを配布することだった。このプリント配布も４人のチューターと１人のＴＡの５人で配布するので、始めは上手く配布できていない様子があったけれども、何度も経験することで、配り方が分かっていったような気がする。その結果として、上手く配布ができた。

今学期の社会調査入門では、自殺の統計データから何が読み取れるのかということを、グループ・ディスカッションを通して学習した。そのディスカッションのアシストをする業務があった。

ディスカッションをする上で、チューターとＴＡは尾嶋先生と一緒に共通理解を持つための議論を予め行った。そこで得た理解をもとに、受講生がディスカッションをしている様子を伺い、議論が止まっていれば「どういう状態だ？」と声をかけて、１つの議論の方向性を示すことを行った。

これ以外にも、提出された課題に対してコメントを記入する業務もあった。

半期の業務を通して、まず言えることは、社会学やっていく上で重要な調査のことについて再確認ができたということである。正直、初めて社会学に触れていく中で調査のことについて教えられても印象には残らなかった。しかし、チューター業務という形で社会調査の講義に出席をして、アシストするために理解を深めて、そういったことを通して調査のことを再確認できた。このことは、個人として学業面における貴重な経験だった。

さらに、知識の再確認だけでなく、自分の能力をも再確認できたということも言えるだろう。グループ・ディスカッションでのアシストをしたりコメントを記入したりと、業務を通して通常ではできない経験をさせてもらえたわけだが、この経験を通して、自分の能力には何が足りないのかということを確認できた。それは、知識的な不足であろうと性格的な不足（作業能力が遅いなど）であろうと関係なく、見つめ直す機会となったことにはかわりないと思える。

この業務は、自分の能力の再確認だけでなく、自分の能力を磨くことにもつながっているだろう。それは学業としての能力ではなく、例えば、まとめる能力、効率よく作業を進める能力、受講生が何を言おうとしているのか理解する能力などである。

チューター業務というのは、「知識の再確認ができる」という利点もそうだが、それ以上に「自分の能力の再確認や向上」という利点が大きいのではないか。そういうことを業務を通して感じた。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

チューターへの提案としては、「やらなくては…」という義務感にとらわれるのではなく、その日の業務を自分にフィードバックさせて考える時間を持てばいいのではと思います。

先生への提案としては、難しいところではありますが、講義形式ではチューターが「何をしているのだろう」と思ってしまいます。ワークショップを行うことの多い講義になれば、そういうことはなくなると思います。

また、チューターの割り当ても講義に合わせた割り当てが必要と感じます。講義形式なら少数、ワークショップ形式なら多数というように割り当てれば、充実した業務が可能かと思います。

| 2009年度春学期　チューター業務を振り返って | | |
|---|---|---|
| 所　　属 | 社会学部 | 社会学科 |
| 担当科目 | 社会調査入門 | |

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

社会調査入門ということで、社会学科4年間の一番基礎となる授業をチューターという形で再受講してみて、3年前に自分が受講した時と比べて先生のおっしゃることがだいぶ理解できたように感じました。3年前は聞いたことのない用語ばかりで全くわからなかったのが3年で様々な授業を受けてきて少しはわかるようになっていた点もあれば、忘れていたために再度思い出すような点もあり、今後の卒業論文製作に向けていい機会になりました。

仕事内容としては主に授業時における先生が準備したプリント類の配布でした。また、1回生同士の話し合いへのアドバイスや、提出されたレポートに対しての添削作業なども行いました。話し合いのアドバイスに対しては、上回生ということで下級生よりも与えられた課題に対して幅広い考え方を持っていなければならないために普段よりも様々な書物を読みました。聞かれた質問に対してうまく答えられたかわかりませんが、いい勉強になりました。また、1回生に対してべったりとくっついても議論がしにくいだろうし、逆に離れすぎるのも役に立たないので、1回生とどのような距離で議論を手助けしてあげるか判断するのも難しかったです。レポートに対しての添削作業は、普段自分達はレポートを提出する側だったのでどのように添削されているか、添削側の気持ちというのも少しわかったように思います。中には読めない字や、書き方の基本がなっていないものもあったので自分が普段どうなのか、ということを振り返るいい機会になりました。

春学期間チューター業務を行ってみて、「教える」を補助するような形で関わることで、普段は逆の「教えられる」側であるので逆の立場の人に対しての普段の自分を客観視できると共に、その人の気持ちも理解できるようになれる経験ができたと思います。高校までとは違い、先生と学生の距離が離れている分、相手の立場を考えることがなかなかないので、学習内容の再確認と同時に、他者理解という経験もできたと思います。

チューター業務開始当初は自分で大丈夫なのか、業務をしっかりとこなすことができるのか不安でしたが、一緒に業務を行った人たちや先生の支えのお陰もあり、なんとか期間内の業務を果たすことができました。

貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

提案というほどのものでもないのですが、この科目のチューターの方にはチューターという仕事に捕らわれすぎず、4年間の学習の基本となる内容を再度確認するという感覚で取り組めばいいかと思います。再度確認することによって3回生、4回生ともに内容は違えど、新たな気づきもあるかと思いますし、いろんな成長につながるいい機会になるかと思います。

先生に対しての提案は特にないですが、普段学生がしないこと（今回で言うと特にレポートへのコメント）をさせることで、チューター自身学生という立場を離れて先生側に近い立場で物事を考えることができることが相互啓発というこのチューター制度のねらいの1つにつながるので取り入れていけば先生、学生の両方にとっておもしろいと思います。

# 2009年度春学期　チューター業務を振り返って

| 所　　属 | 社会学部　　社会　　学科 |
|---|---|
| 担当科目 | 社会調査入門 |

＜春学期を振り返ってのまとめ　仕事内容・気づいたこと・感想　など＞

春学期を通して社会調査入門の授業のチューターとして一緒に授業を受け、プリント配布やディスカッションの補助などを行なった。

プリント配布はチューター同士協力し、配布物が多くても上手く配布することが出来たと思う。最も気を使ったのはディスカッションの補助で、学生が自殺についての議論を行なう前になぜこの年に自殺率が上がったのか、あるいは下がったのか、また、男女や年代において自殺率に差が見られるのはなぜかということをチューターが事前に調べていき、授業前に集まって先生と話し合った。実際学生がディスカッションを始め質問を受けたとき、きちんとその質問に答え、より良い議論を引き出すためにはどう答えたら良いか戸惑った。答えをそのまま教えてしまっては意味がないし、かといってわかりにくいアドバイスをしても意味がなく、学生との話し方も大切だと感じた。

また、学生が書いた課題にチューターがコメントをする作業を行なったとき、固定的概念に捉われない斬新な考え方に驚いたと同時に、それに対するコメントを書く際、お互いにわからないところを質問したり確認しあったりして協調も出来たと思う。ただ、自分自身がその課題に対しての答えの軸を把握していないとコメントが難しく、時間がかかってしまった。

私も１回生のときに社会調査入門の講義を受けたが、そのときとはまた違う切り口から社会調査について学べたと思う。私が受けたのは調査方法についてテキストに沿って細かく見ていく講義形式だったが、今年の調査入門は実際に学生同士ディスカッションしたり与えられた数的データからどういうことが言えるかを読み取るというように、自分で考えて答えを出すというのが多かったように思う。

『人の話を聞かないことには社会学は始まらない』という先生の言葉がとても印象に残った。

＜今後のチューターまたは先生への提案＞

チューターの人数が４人（他大学院生の人が１人）と少なく、集まって行なう作業の日程が組みやすく動きやすかったです。プリント配布が主な業務でしたが、ディスカッションの事前準備やコメントをする作業がもう一度歴史を振り返ったり答えを考え直したりと、社会学という枠に限定せず自分自身非常に勉強になったので、そういったことが増えればさらに良いと思います。